

瀧澤家壬辰日記 (六)

自天保三年二月廿八日
至同年三月廿五日

校訂者

洞 暉 峻 康 隆 岡 村 千 曳
富 雄 鵜 月 洋

○廿八日丙午晴風屋より風止

一四時前宗伯を以大傳馬町大丸やへ遣しお次ひなの幕か
ひ取候様申付代金もたせ遣去春初節句に調可遣處疱瘡にて延引及此春これらのもの無益の義付宗伯等辭
するといへ共祝義のかたはしにて又俗に従へさること
を得す尤きぬにて下直之品見計ひ候様申付早此序小傳馬町丁子や平兵衛方へ宗伯を立よらせ八犬傳八輯ひやうしふくろ画稿遣之且同書序文直し度處有之付一
寸かへしくれ候様申遣昼前宗伯歸宅大丸やに罷越候處ひなのまく絹へ只今出來合無之ちりめんへ七尺のも

の三十七匁にて地尤わろしその餘へ金三分餘(二下三字虫喰)候

よし告之且丁子へも立寄表紙ふくろ画稿遣之序文稿取

戻し可申處筆工(二一字虫喰)今日出来のよし付夕方丁

字やより爲持上旨申付任其意罷歸候よし申之

一宗伯出宅後中川金兵衛八犬傳八輯四の下写本誤写書直

し持參当番出かけ丁子やに可遣旨申付即刻右直し一

覽則写本金兵衛へわたし遣但絵つき二丁へ金兵衛方

へ預ヶ置

一昼後おさき來ル時候見舞也手みやけ二種持參俠客傳三

番校無疵の本五冊遣之薄暮歸去

一予昨日の疲勞にて腰痛并咽もいたく且留飲にて著述

不堪依之休筆夜ニ入三才發地^(マ)の部初卷より四冊め披閱
今夕四時就寢○お次今日月代いたし且髪をおく左右か
ら子髻也

一昼後おみちひなとり出し如例飾之

○廿九日丁未晴風^{屋後}薄曇^夕大風雨^無雨止^夜又晴

テ風止

一旧冬より予小机用ひ候処腰痛の爲不宜ニ付今朝より又
如前之大机用巽三疊宗伯^(マ)をちうし早

一京都角鹿清藏書狀天奏屋敷參向公家衆の供届來ル二月
十五日之狀卯卯^(マ)四月中并ニ當春^(マ)從此方より差遣候書狀
之返事も短文させる要事なし

一タ七半時比宗伯太郎を携上野廣小路に植木見物ニ罷越
候処俄ニ風雨ニ付下女梅へ傘もたせ迎ニ遣ス御成道石
川やしき前にて行あひ候よしにて宗伯太郎薄暮歸宅

一夕方おみち母土岐村老尼來ル手みやけにしめ物一包被
贈之今夕此方へ止宿也

一夜ニ入丁子や平兵衛來ル予對面八犬傳八輯序文并ニ同

壬辰日記

書口画二丁出來被爲見之序文へ直して有之ニ付請取置
口絵へかき入の爲筆工へ廻し候様申談わく紙差添直ニ
丁平へわたし遣ス要談早て歸去小田原ちやうちんかし
遣ス二十ウ

一予腰痛悪く候留飲今日昼後より順快宗伯療治にてしは
く服藥ス

一八犬傳八輯五之卷の内二丁餘稿之五丁めの右迄也連日
小恙ニ付いまた多く稿せず今夕四時就寢

○三月朔日戊申晴^風

一八犬傳八輯序文之内轉倒直しの処筆者ニ直させ候も手
おもく候ニ付宗伯ニいひつけその処切ヌキ上下ニいた
し元の筆工はり入おくこの外誤写并ニ一二字ツ、の直
しハしるしをつけその処はりけしおく筆者に書直させ
可申ため也八時前やうやく校し早

一昼前清右衛門來ル爲上巳祝義如例としまや白酒一升入
老樽并豆煮小一重贈リ來ル明日下町へ罷越候よしニ付
小傳馬町丁字や平兵衛方へ罷越先月かひ取候俠客傳并

ニ美少年録等本代直段かけ合右代金拂遣し候様申付金
貳分三朱もたせ遣ス右要談早て歸去

一昼後八時半比土岐村老尼歸去○下そうちの者爲上已祝
義あさつき三把持參

一予腰痛等追々順快尙服藥ス今日多用ニ付八犬傳八輯五
之卷の内纏ニ半丁稿之

一鉄砲洲本湊町松本三郎治手代忠八炭代乞ニ來ル則金貳
分壹朱拂遣ス上端五分三厘引しむ

一米や又吉申付候白米七斗二升差越之春來二升下直ニ成
ル代金壹兩遣之今夕四時就枕

○二日己酉晴風烈屋前風止

一八犬傳八輯自序尙又直し度有之依之今朝又張直し且つ
け札等いたしおく

一昼時丁子や平兵衛より使を以八犬傳八輯口絵二丁かき
入出來見せらる内老丁ハ片面未出來ニ付此方へ留置丸
壹丁分并ニ序文写本校訂誤字直させ候様口狀書差添右

使にわたし遣ス(二十一才)

一昼後芝岡田や嘉七手代二度梅代金乞ニ來ル金壹分のよ
しにて書出し持參候へとも帙も無之あまり高直ニ付金
三朱わたし壹朱ハ引候様意味合宗伯を以右手代へ申聞
早

一予昼飯後月代いたし八時過より宗伯同道にて飯田町清
右衛門方へ罷越本春の年始礼也予へ先田口久吾方に罷
越候処勸益せらる夫より飯田町宅に罷越とし玉遣之祝
義の益早て二月分藥うり溜勘定いたし宗伯を以中や惣
介方へ遣し帑代買かゝり不殘代錢遣之且小松やにて生
腦小半斤かひとらせ江戸志の事申遣候へ共三右衛門外
出ニ付不及其儀予ハ世繼稻荷へ參清右衛門方にて夜食
ふる舞れ宗伯同道にて暮六時比歸宅

一昨日清右衛門に申付候ちやうしや平兵衛より先月中か
ひ取候俠客傳美少年錄代金四十一匁の内田舎へ遣候ニ
付諸かゝり等の意味談しさせ候ニ付代金貳分二朱ニ可
致旨申ニ付貳分二朱わたし候よしにて昨日清右衛門へ
渡し置候金子の内老朱返ル并ニ丁子や請取書今日清右
衛門宅において請取之相濟

一昨日清右衛門へ申付俳優三津五郎菊之丞追善にしき画の事鶴やに申入候處不残うり終り一枚も無之よしにて右當役者追善合卷さうし二部差越候よしにて清右衛門持參今日於飯田町請取之

一予昼前へ八犬傳八輯序文写本再校訂いたし夫より月代いたし且他行ニ付休筆也歸宅後今夕三津瀬川追善合卷さうし二部披閱之四時就枕

○三日庚戌薄晴風無程快晴夕方風止

一朝飯後より宗伯礼服にて松前兩やしきへ当日爲祝義罷出星九時過歸宅

一今朝諸神并ニ家庙拜礼昼飯祝義膳赤飯等白酒にしめ物如例一同祝之早(三十一ウ)

一昼後清右衛門爲当日祝義來ルひな煮染物小重ニ入持參今日歸路かまくらかしとしまや足袋店にて太郎お次足袋かひ取候様申付式百文わたし遣ス但十六文餘分也右要談早て早ニ歸去

一予留飲にて昼後より如例背筋惡寒つよく机ニかゝりか

たくニ付倚爐平臥三才發秘地之部二三右兩卷各半分披閱今夕四時就寢八犬傳八輯五之卷の内五丁め半丁弱綴りかけ休筆

○四日辛亥薄曇無程晴風なし

一昼前音羽町板木師伊兵衛來ル金瓶梅二編写本中川氏より出來候哉と問ふ未出來然とも此ころ取かゝり居候筈ニ候間金兵衛方へ罷越聞合せ候様及返事因て歸去

一昼時戸田因州内河合孫太郎來訪予對面手製あま酒一器被贈之取次梅也過日覺重へ傳言有之候ニ付写し物之事ニ付罷越候よし被申之依之薪のけふり中の本料紙みのかみ九十二枚差添写しの事申談わたし遣ス此便リニお歟より母へふみ來ル右へ是迄ひな長持戸田殿藏に年々預置候処手せまニ付当年切にて預りかたく候間可及斷旨始申候よし也右一事ニ付不及返翰と云

一同刻根岸鈴木一郎より使札先月中かし置候烹雜の記被返之且熟友より被頼候よしにてその人此節刀を買んとほりし候処目貫に夷大黒有之ケ様之もの腰ニ帶候て吉

凶いかゝ候哉予に問くれと切に教を乞ふと云させる吉
凶もあるましき旨所存返翰に申遣ス

一 当二月上旬より此節迄まゝろ魚日、多くおし送り來ル
よしにて下直いふはかりなし中まゝろにて二尺有餘三
尺ニおよふもの小田原かしの仕切式百文也と聞えしか
なほ下直ニなれり今日家内にて二尺餘のまゝろ片身を
八十文ニかひとりにき巷路（五、六字虫喰）にまゝろのたちうり多
く出ッ餘魚へ一向に稀也（五、六字虫喰）鯛平目鰈ほうくかな
かしら等一向に賣來らす尤高直也といふ（二十二オ）
一 八犬傳八輯下帙五之卷の内一丁半稿之尤書おろしのみ
也六丁の右まで左へ画つき也昨今予少し水汚一昨日外
出の疲勞未癒しかれ共終日机ニかゝりをはんぬ今夕四
時就枕

○五日壬子曇早朝小雨

其後薄晴夕七時雷雨雷ハ兩三声
雨も程なく

止夜ニ入晴

一 今朝中川金兵衛八犬傳八輯卷の卷七丁ノ下口絵のうら
へ付候筆工半丁出來持參金瓶梅二編六之卷筆工ハ明日

出來のよし被申之昨日板木師伊兵衛其許へ參候哉と問
せ候處不參よし被申之伊兵衛昨日此方へ催促ニ參候よ
し及示談とり次おみち也八犬傳右半丁の写本うけ取片
面ツ、の口絵へ預り置候而口画残り并ニ惣もくろくわ
く出來の節はり入遣し候様示談の上右口絵片面ツ、の
もの二丁金兵衛へ預けおく右うけ取要事承知のよしに
て歸去

一 四半時頃よりお百宗伯同道にて赤羽有馬やしき水天宮
に參詣八半時比歸宅其後雷雨也

一 昼前覺重來ルひな長持の事斷には及び候へ共次右衛門
方長持三棹御土藏ニ入有之其内アキ長持も有之候間此
方長持ハ殘し置ひな計差越候へ、右アキ長持へ入可申
よし申之乍去此方長持の置所無之間いつれ宗伯歸宅後
可申聞旨及挨拶且覺重手製之治水圖一卷持參見せらる
右卷物ハ借覽の爲留置右要談早て早ニ歸去

一 鈴木一郎より使札これハ昨日之事にて四日の條へ記之
早

一 關忠藏家内より使札先月中貸置候俠客傳被返之右謝義

として御上りほしのり十枚被贈之此方より右うつりと
して小兒へたう画三ふくろ遣之

一大坂河内や茂兵衛狀飛脚やより届來ル二月廿五日出十
日限早便也二月八日出にて申遣候三才發秘(三十三)落
丁拾老枚程中ニ入置指越候右ハ茂兵衛方ニ同書一部有
之候ニ付ヌキとり寄越候もの也自序の落丁ハその本に
も無之間斷候旨申來ル且同人三月五日頃出立(マヤ)唐品仕
入ニ長崎へ罷越五月節句前後江戸出府の心かけニ罷在
候よし申來ル

一今日初雷はしめの一声頗震ふ後の一兩聲微音にして止
雷後程なく雨也雨も無程止

一芝神明いつみや市兵衛より使ヲ以神女湯つき虫藥奇應
丸等とりニ來ル宗伯他行中にて包み不置候間追而參り
候様申聞かよひ帳面のみとめ置其段宗伯歸宅後申聞お
く

一予日々机上にかゝるといへとも筆不進八犬傳八輯五の
巻の内今日も才に一丁半弱稿之九丁めの右也尤いつれ
も書おろしのみ不及傍訓今夕四時就枕

○六日癸丑薄晴明六時前
なほくらき時地震長く
ふるふ昼後より
薄曇

一丁子や平兵衛より八犬傳八輯自序写本書直し出來見せ
らる使またせ置勿ミ校訂二丁半之内三丁め半分ハ留置
二丁ハ使にわたし遣ヌ残り半丁ハ惣もくろくのわくの
画出來の節留置候旨口狀書ヲ以丁平へ申遣ヌ

一昼後清右衛門來ル過日申付候俳優三津五郎菊之丞追善
にしき絵もはや西村や森やにも無之山口やにてハ藏積
のもの残り居候よしニ付不殘乞求候よしにて持參請取
早且又過日申付候小兒足袋としまやにてかひ取持參然
処お次たび五もん半の処間違五もんにてちひさく候間
とりかえ候様申付右たひ返し遣ヌ并中やにて先日かひ
取候口のみのかみ十帖かひ取候様かよひ帳遣之右要談
早て夕方歸去

一昨日の初雷兩國村松町へ落候て村田といふ商人の隣家
の女兒年十七ニ成候か厠より出候節うたれ即死のよし
清右衛門ものがたり也其娘ある武家へひな拜見ニ罷越

かへり候て厠へゆき候節の事のよしわつかに一声の初雷に撃れて震死せしは尤憐むへしこの事實説也といふ
(二十三才)

一宗伯今日奇應丸能書摺之奇應丸ふくろかきたておみちも折く手傳ひ候て終日也

一予八犬傳八輯五の卷の内才に一丁半餘稿之とかく筆すゝますはかゆかさることかくのことし旧冬より休暇なく且疲れ且倦たる故なるへし

一ひな長持之事おみちふみを土屋長三郎殿おくへ遣し土藏ニ預置旨たのみ遣候処二ツの土藏の内一ツハ大破にて用立かね候間一ツの土藏にてスキ間無之候ニ付斷候よし申來候故おみち告之されへとてひな斗次右衛門方へ預候ては長持の置所無之ニ付未及決着先当分ひな長持之中間ニ差置候様おみちへ申付早如例予夜分も著述
今夕四時就寢

○七日甲寅薄曇今夜九半時
ころより雨

一今朝音羽町板木師伊兵衛金瓶梅二編七の卷写本五丁半

持參是より京橋迄迄罷越候間歸路又可參間夫迄校合願候旨申述歸去依之早速校閲の処誤脱多くあり則しるしつけおく昼前伊兵衛又來ル右写本多く誤脱有之候間筆工金兵衛方へ持參いたし直させ可持參もし当番ニ候ハ、今日の間ニ合かたき旨おみちを以申聞右写本わたし遣々其後不來金兵衛當番にて直し早速不出來故なるへし

一昼後木村亘より使札同人編集聞まゝの記稿本三冊借さる且先頃より之所望の水滸後傳國字評允借願候旨并ニ奇應丸金卷分分貫度よし書中ニ申來ル奇應丸ハ宗伯ニ申付包ませ大包式ツ遣之代金卷分請取宗伯ニわたしおく且後傳國字評追評共二冊返翰差添箱ニ入右使ニわたし遣々磁器佛像國產にて詔候へハ出來(一、二字虫喰)粉本差越候様追書ニ申來ル此返事も申遣ス(二十三才)

一宗伯泉市注文奇應丸包之其外賣藥製し候て終日也

一予昼前金瓶梅校訂其後木村へ返書長文ニひま入夕方より聞まゝの記三冊不殘披閱今夕四時就枕右外用ニ付今日八犬傳八輯五の卷稿へ休筆也

○八日乙卯昨夜雨但風終日小雨無間斷夜中同斷

一昼前中川金兵衛金瓶梅二編七の卷写本誤写書直し持參
受取おく且丁子やより八大傳八輯惣もくろくわく并ニ
残り口絵老丁書入ニ差越候様申之依之先日此方に留置
候口絵并ニ口絵つき七丁の下の左八犬士の歌等わたし
遣しはり入レの事申談し并ニ下帙へ十三回め外題認遣
し右之通り書入餘ハ當分黒木ニいたし置候つもり合心
得早右惣もくろく等認候ニ付金瓶梅八の卷過日伊兵衛
ニ十日頃出来と申候へ共十二三日比にも可及哉之旨申
之伊兵衛參候へ、其段可申繼旨示談早て金兵衛歸去
一予八大傳八輯下帙五の卷の内三丁稿之十五丁め迄也先
月中より今日はしめて三丁稿連日筆すゝます日ニ老丁
前後にて日を消し候也今日雨天ニ付外ニ來客使札等な
し今夕四時就寢

○九日丙辰雨今朝五時頃より小雨ニナリ折ニ止昼前より半晴昼後又

曇八半雨しはらくニして
時比雨止

壬辰日記

一昼前覺重來ル深川筆者より遺老物語十九の卷写し出來
此料九十二文の内先月勘定違にて廿四文差引六十八文
并ニ筆者久和島雲磴へ返翰さし添わたし遣スひな長持
之事覺重又被爲談しかれとも不都合之義ニ付可及延引
旨申聞おく

一昼後清右衛門來ル信濃より神女湯注文又申來候よしに
て廿包遣し度と被申之芝泉市へ可遣二十四包爲廿包こ
しらへ置候有之則これをふりかえ清右衛門ニわたし遣
ス是より右飛脚旅宿ニ持參のよし也此方にて上包いた
し自分手紙さし入其後用事終て歸去且過日申付候中や
にてみのかみかひ候事注文之みのかみもはや二帖なら
てハ無之よしにて二帖今日清右衛門持參則請取おく尙
又賣藥入用のり入二、三字不明半切中やに之注文申聞通帳わ
たし遣ス

一八時過丁子や平兵衛より小ものを以八大傳八輯口絵の
こりわく画写本とから画写本ひやうし同斷出來かき入
致させ見せらる片面の処則序文の末半行八犬士の歌半
丁金兵衛方へ談し置候ニ付同人はり入差越し使またせ

置則刻校関右一の巻の内三四五七七ノ下五丁外ニとひらひやうし写本共右小ものニわたり彫刻の爲丁子やに遣之

一夕七時比御くらまへ札さし坂倉や^(三字不明)金兵衛より使

札過日頼みのたんさく扇面并ニ兎園集別集借覽の事申來候則たんさく十一枚扇面八本兎園十七十八式冊返翰差添先方ふろしきへ包み右使にわたり遣ス

一宗伯今朝より腹痛にて昼後迄平臥昼後より神女湯劑酒製之分はかりわけ製之

一予八大傳八輯一の巻序文并ニ口絵惣もくろく等はり入とち合せ且同書一より三迄宗伯檢改いたし候稿本誤脱等補写今日種々多用ニ付八大傳八輯五の内わつかに一丁弱稿之夜分へ休筆十六丁め右迄也今夕四時就枕

○十日丁巳晴^{八時頃雨程なく}

俄ニ曇雨止

一昼飯後よりお百太郎を携飯田町宅に罷越暮六時前歸宅おさき方より獨活都テよし^(四、五字不明)且お百へ申付候黒

砂たう一斤小松やよりかひ取持參かよひ帳携歸ルニ十

四ウ

一夕七時過梅を以屋代太郎殿へ遺老物語十七より廿迄四冊返却残り五の巻借用之事申進候處他行のよしにて風呂敷のみ被返請取書來ル○今夕^(二字虫喰)金之内式分三朱宗伯より請取之

一宗伯今日神女湯製し早酒製之分おみち手傳ひ炙之七時過就枕

一予八大傳八輯五の巻の内式丁半弱稿之此節とかく不進今夕四時就枕

○十一日戊午薄晴

一朝飯梅を以屋代殿に昨日之返事乞ニ遣ス返翰并ニ木犀^(アヤメ)

花來ル遺老四の巻外へかし置候間あとよりと申來ル

一昼前屋代太郎より使を以遺老物語四の巻被借之則請取過刻の小花立一ツ返し遣ス

一昼後画工柳川重信來ル予對面手みやけ被贈之且八大傳八輯四の下残り画写本并ニふくろ画写本出來見せらる是より板元へ持參のよし稿本もそのまゝさし添遣ス直

ニ筆工ニ廻し候様丁子やに傳言申遣ヌ因て早ニ歸去

一八時過梅を以滯見覺重方へ手紙差添遣老物語四の卷并

ニ料紙久和島雲磴へ遣し候手簡共一包ニいたし則覺重

方へ遣之梅則慥ニ取次ニわたし候よしにて歸宅

一宗伯今日カナアリや庭籠そうちいたし雌雄庭籠へ入ル

雌鳥一羽遣ル

一近年勝手向費多く格別ニ物入多候間其段おもちへ申聞

向後萬事ニ心付儉約いたし候様戒おく此義余少ニ所存

有之候故也且先月中元立より申來候ニ付來ル十四日麻

布へ年始に罷越十六日ニ歸宅いたし候様巨細示談ニ及

ふ

一八大傳八輯五の卷の内今日もわつかに一丁稿之外老丁

ハ不宜ニ付書直し共ニ二丁但廿一丁め迄也(二十五才)今

夕四時就寢

一昼後熊膽屋金右衛門來ル去冬十月廿二日かひ入候熊膽

代金貳兩貳朱わたし遣ヌ旧冬此方よりわたし置候かひ

取書付返候ニ付宗伯請取及消印但金右衛門印形旅宿に

差置持參不致よし金子わたし候後申ニ付判取帳へ金右

衛門自筆にて金子請取書いたさせ印形へ近日持參いた
し候様申付おく因て歸去

○十二日己未晴八半時曇夜ニ入雨程なく
比より曇雨止

一昼前中川金兵衛金瓶梅二集八の卷筆工稿本差添差置歸
去

一昼後木村亘より使札過日貸進の水滸後傳國字評被返之
且俠客傳略評被爲見之請取返翰遣之

一八時前よりお百深光寺へ墓參夕七時頃歸宅

一宗伯今日八大傳八輯四の下迄校訂誤写多くあり予不殘

直し置但板下写本も右同斷誤写あり彫刻出來の節校訂

可致旨宗伯ニ申聞おく

一夜ニ入麻布土岐村氏よりおもち方へ使來ル幸便にてた

のまれ候よしにてその人口上申述歸去近日おもち麻布

へ罷越候ニ付ての用事のよししくはしき事をしらす

一昼後清右衛門來ル過日申付候藥用のり入中やにてかひ

取持參尙又みのかみ半紙注文申付中やかよひ帳もたせ

遣ヌ多用中ニ付早ニ歸去但八百長二月分上家ちん壱分

式朱持參則請取早

一 予昼後迄八大傳八輯五ノ卷廿一丁め迄丁稿之夫より木
村へ長文返翰認め遣之且月代いたし金瓶梅二集八の卷
写本校訂いたし尙又同書表紙画写本二本稿之夜ニ入休
息四時就枕

一 今日 (二、三字虫喰)

り甲州やに下女奉公人之事及示談候よしお
百并ニおみち告之(二十五ウ)

○十三日庚申薄曇無程薄晴

一 中川金兵衛來ル昨日の金瓶梅式編の写本直しも無之候
は、今日板元泉市へ可致持參旨申之依之右七八式冊の
写本并ニ稿本四冊外ニ外題画稿迄丁式包ニいたし金兵
衛にわたし遣スタ方同人又來ル過刻の二對無相違泉市
へわたし候よしにて泉市傳言申述歸去

一 八大傳八輯上帙四の下の残りさし画筆工かき入出來今
朝中川金兵衛持參後刻板元丁子やより取ニ參候筈ニ付
一覽の上預り置くれ候様被申候ニ付上帙稿本五冊残り
書画をはり入上袋拵書付等いたし丁子や便りを待候処

いかゝいたし候哉今日ハ不來也

一 夕七時比伊藤半平來ル正月中頼ニ付宗伯才覺を以松前
納戸よりもらひ受候て半平へ遣候溫腴膾肉謝礼として
紙包物二種入外ニ扇子一本持參先方へ届くれ候様口上
申述歸去取次おみち也半平予と徒弟の間からなれ共つ
ねに路人のことし玄關にて口上申おくのみ彼人の癖歟
一 夕方土岐村元立來ル明日おみち麻布へ參候哉否を聞ん
爲のみと思はる早ニ歸去此方共に之事ならねハ予對面
ニ不及之内忽に歸去と云

一 宗伯今日神女湯能書百枚奇應丸能書百枚摺之終日也○
昼後お百おみち入湯のかへさ御成道川越やに下女奉公
人之事申付置候様申遣ス○下女梅小遣無之間借用いた
し度旨申候よしお百告之先月約束金迄兩二分わたし遣
しいまた三十日も不勤候処左様之願沙汰ニ不及旨お百
へ申付おく

一 予八大傳八輯下帙五の卷の内三丁稿之廿四丁め迄也今
夕庚申祭画像奉掛之献供并ニ四時迄神燈如例今夕如例
四時過就枕(二十六オ)

○十四日辛酉晴 屋後より少し風アリ

一早昼飯にておみちを麻布六本木里方土岐村元立方へ遣
ス太郎お次同道年始初參也下女梅并ニ人足太兵衛を供
ニ遣ス梅并ニ太兵衛は夕七時過歸去元立方にて被頼手
帑を堀江丁へ届ケ候間歸宅延引便路ニあらず及迷惑よ
し太兵衛申ニ付人足ちん式百五十文遣のおみち等ハ麻
布へ二夜止宿來ル十六日ニ歸リ候様かねて申付おくみ
やけ二種爲持遣ス

一昼後丁子やより小ものを以八犬傳八輯四の下残りさし
画昨日金兵衛かき入いたし持參候分取ニ來ル則右さし
画見たし一丁并ニ同書稿本五冊袋ニ入右使にわたし
遣ス書林行事に改ニ出候故也明十五日ハ日から不宜今
日出し候様口狀書を以申遣ス

一地主杉浦清太郎よりもちくわし一重 カス 被贈之清太
郎小兒七七忌によつて也

一宗伯今日夕方迄ニ奇應丸神女湯上外題小包にすり早ル
一予八犬傳八輯下帙五の卷廿七丁め終迄稿し早但今日の

分式丁也日くれてつけかな三丁半稿之四時就枕○今夕
四時過同朋町柏屋角にて町人往來の節賊に衣類を剥奪
れ候よし風聞アリ後ニ知之

○十五日壬戌晴 美日

一昼飯後早々宗伯松前兩やしきへ爲本日祝義罷出伊藤半
平より差越候進物納戸役ニ遣之溫臍臍肉の謝礼也八半
時比歸宅

一昼後清右衛門爲当日祝義來ル過日申付候半紙みのかみ
中屋よりかひ取持參かよひ帳にたのみ飯田町宅に差置
候よしにて不及持參雜談後下町へ罷越候よしにて歸去
一今日おみち并ニ太郎お次一同麻布元立方へ止宿也
一八犬傳八輯下帙五の卷十七丁迄つけかな稿之今日の分
十一丁半也外さし画分除く今夕四時ニ就枕

○十六日癸亥薄曇 無程 晴 屋後 風夜ニ入 止

一タ七時前おみち并太郎お次麻布歸來ル駕にておくらる
みやけ物持參昨日芝田町宗之介方へも罷越候よしにて

おみちあねよりも竹のこもち等被贈之おくり駕の者直
ニ 歸去

一 宗伯今日神女湯小切五角折之并ニ包おく終日也

一 予八犬傳八輯下帙五之卷廿七丁終迄つけかな共今夕稿
し早四時過就枕

○十七日甲子曇

無程 薄晴

夕七時 過

小雨

日くれ前 夜ニ入時四

過より終夜雨

一 昼飯後下女梅無據用有之候間宿へ罷越し度旨おみちへ
願候処引移候て間無之處度ミ宿へ罷越候義不相成旨申
聞候よし其後梅又予ニ右之通り願候間度々之事にて奉
公人の所爲ニあらず用事あらハ宿より罷越可致相談候
処自由の至り候間不成旨きひしく申聞候へハ腹立候様
子にて後ニ聞ケは昼頃宿より男罷越梅外行の小袖かし
置候処入用有之よしにてとりニ罷越わたり遣候よしお
みち見うけ候間たつね候へハ先日宿よりかり受候よし
梅申候自分衣類なしもめんあはせ一ツ着のまま也

一 昼後おゆう并ニおますお鉄同道年始祝義として來ル手

みやけ持參そは并ニもちくわし等振廻之昨日夕方清右
衛門方へ罷越止宿いたし飯田町より罷越候よし今夕皆
此方へ止宿也

一 昼後清右衛門來ル過日の中やかよひ帳半紙みのかみか
ひ入分しるさせ持參雜談後歸去是より下町へ罷越候よ
し也清右衛門少々眼病のよし申ニ付宗伯あらひ藥調合
いたし遣之(ニ)二十七

一夜食後下梅逐電いたし候よし六半時比お百告之小ふと
(ニ)一ツもち出し候よし外にはくしはこやふれ文庫の外

同人所持の品なし明日宿へ人を遣し請人よひよせ候様
おみちへ申聞おく宗伯へも其段可申旨是又申付おく

一 予昼迄八犬傳八輯五の巻稿本自校誤字を補ひ尙又同書
五の巻さし画三丁稿之暮六半時頃稿し早夫より三才發
秘人の部少ミ披閱の処程なく人定ニ及ひ候間就枕

○十八日乙丑

昨夜無雨

夜中雨同斷

一 昼時下女梅請人下谷すぎや町老丁め平藏店長次郎妻來
ル右は梅義昨夜出奔あね方は罷越候よし今朝右あね方

より告來り御わひいたしくれ候様申ニ付罷越候何とそ御使ひ被成下様申候依之宗伯罷出於玄關右妻に梅是迄の始末申聞一ト通り之義にも無之自分の物とはいひなから蒲團等もち出し出奔の爲体不埒ニ付聞濟候間暇遣ス條本金老兩式分明日中返納致候様申付遣ス

一今日終日大雨ニ付お祐并ニ兩人の子供此方へ止宿也宗伯八犬傳八輯五之巻校訂誤写しるしつけ見せ候ニ付予悉補写早

一予八犬傳八輯六ノ巻三丁半稿之但書おろしのみ也今夕四時就枕

○十九日丙寅今曉晴雨終日不晴屋後折ミ夕方より

暮六時前迄大雨雨止其後雨止(二十七)

一昼飯後おゆう子供を携家内一同入湯ニ罷越八半時比おゆう兩人之子供歸去天氣不定ニ付差留候へ共長逗留ニ罷成候間先飯田町清右衛門方迄退キ今日四谷町へ歸宅致旨申之依之俠客傳みのすり式はん校本五冊おゆうへ遣ス則歸去

一無程久右衛門來ルおゆう等に途にてあひ候よし迎の爲罷越候処ひな長持宗伯おゆうへ談し候処久右衛門同役家主方ニ預藏ニケ所有之右藏ニ頼ミ預ケ可申よし申候ニ付久右衛門右長持の大小見候半爲ニ罷越候よし申之則長持を見せ近日人足兩人やとひとりニ差越くれ候様宗伯談之右用向早て久右衛門も早ミ歸去

一御くらまへ坂倉や金兵衛より使札過日かし遣候兎園拾遺二冊被返之并ニ黒九子四包差越しくれ候様申來ル代料式百文差越ス四包にてハ式匁の処廿文不足則四包并兎園二冊請取返書遣ス

一夕方清右衛門來ル下女梅十七日夕出奔之始末申付一昨日請人女房へ今日中本金納候様申付候処不沙汰ニ付明日右請人長次郎方へ罷越候様申付おく右用談早て歸去一夕七時過宗伯を以小傳馬町丁字や平兵衛方へ八犬傳八輯五の巻稿本并ニけわくかみ共八枚差添遣之且潤筆之事申遣ス宗伯平兵衛ニ對面稿本をわたし金子拾兩壹朱判にて請取薄暮歸宅歸路大雨にて難義のよし傘携草履下駄にて出候間衣ふくぬれ足袋草履下駄共泥土ニ塗れ

候よし也丁子やより看板下書之事頼候よし也

一先刻宗伯を丁字やに遣し候節五の巻画稿三丁より紛れ忘却不差遣候ニ付宗伯歸宅後其段申聞直ニ右稿本もたせ中川金兵衛方へ遣し明日丁子やに届くれ候様たのみ遣ス(二十八才)

一金兵衛明日四時交代にて当番ニ罷出候故出かけ丁字やに無相違届可申旨返事宗伯へ申聞候よし也且五の巻本文三丁めより丁付いたし候様是又金兵衛方へ示談宗伯程なく歸宅

一予八大傳八輯六の巻の内三丁稿之七丁めの右迄也今夕四時就寢

○廿日丁卯今朝
五時より晴其後
風出又薄曇終日
同斷

一昼後清右衛門來ル下女梅請人長次郎に一昨日日本金昨日中ニ納候様申付置候処今以不沙汰ニ付清右衛門に委曲申聞右長次郎方へ遣し候處明廿一日中ニ無相違金子持參可仕旨申ニ付きひしく取極候よしにて清右衛門罷歸ルとしまやにみりん酒注文申付候様清右衛門へ申付お

く右用談早て歸去お祐母女昨夕雨天ニ付又清右衛門方へ止宿のよし也今日屋後
歸宅歟

一昼時中川金兵衛來ル昨日宗伯ヲ以頼遣し候八大傳八輯五の巻絵わり今朝丁子や迄届候丁字やより同書看板之事傳言有之候よし被申之右看板下書ハ明日書候間当番歸路立よりくれ候様取次お百を以申聞候へハ承知のよしにて歸去

一芝泉市より先日注文之賣藥取ニ小もの來ル金貳兩被差越候今日之注文書先日之注文書とちかひ候間先日之注文通り神女湯二十つきむし藥大十小十奇應丸小包廿五遣之金子うけ取つり錢廿文かよひ帳ニ差添使にわたす一宗伯三才發秘落丁とち入二冊とち直し破裂相つくるひおく

一予八大傳八輯下帙六之巻の内三丁半稿之拾一丁め迄也夜ニ入八大傳八輯看板稿本一枚稿之四時就枕(二十八才)

○廿一日戊辰薄曇無程
晴

一昼後おくれ子供祖太郎悌吉同道爲年始祝義來ル手みや

け持參蕎麥とり肴酒祝義早て茶くわし出ス暮六時頃渥

見僕迎ニ來ル則歸去今日おくわに俠客傳校合すり本五冊遣之河合孫太郎より扇面二本おくわに言傳染筆頼來ル多用ニ付うけ取おく但河合孫太郎へかし候ふろしき一ツ返ル

一夕七時過中川金兵衛八犬傳八輯看板稿出來候へ、板下可書旨申來ル則右稿本わたり遣し板下急候間早と認遣し候様取次おみちを以示談承知のよしにて歸去

一夕七半時比下女梅請人長次郎女房差添梅伯父のよしにて根津七軒町平七店利七と申者來ル請人長二郎貧窮者

ニ付返納給金へ右利七差出し候間請狀印形切スキわたしくれ候様申宗伯對面金子之事へともかくも引取へ請人印形可致旨長次郎印形失念持參不致旨申ニ付右利七代印ニ可致處利七も印形持參不致よしニ付則長二郎代利七トいたし引取一札に爪印いたさせ返納給金壹兩貳分請取下梅所持の小文庫等長次郎女房并ニ利七へわたり遣し早

一今夕宗伯已待弁天祭献供如例同人今日唐本帙損し候分

張之水滸傳三才發秘等也

一予八犬傳八輯下帙六の卷の内四丁弱稿之但十五丁め迄書おろしのまゝ也今夕四時就枕二十九才

○廿二日己巳晴風烈屋後より風止

一早朝中川金兵衛八犬傳八輯看板写本出來今朝丁子やニ持參旨申之即刻一覽則わたり遣ス

一昼後丁字やより小ものを以右同書上帙ふくろ書入出來見せらるいろさしわけ書をえ遣之但今朝の看板少と直し度所有之板木師近所ニ候へ、其処くみ木ニいたし候様申遣ヌもし板木師遠方に候はゞ手おもく可有之間そのまま差置可申是又口狀書を以申遣ヌ

一昼後清右衛門來下女梅給金昨日取戻し相濟候旨右わけ合くはしく申聞早雜談後早と歸去○お百此節寸白にて起居不自由のよし但腰痛のみにて餘病なし

一宗伯今日小説唐本二度梅の帙新ニ造之終日也但右帙五ツもうら打つくろい出來

一予八犬傳八輯六の卷の内四丁稿之十九丁め也今夕四時

就寢

○廿三日庚午薄曇無程薄晴

一今朝としまやより注文之みりん酒人足持參則代銀右人足へわたり遣一升樽一ツ返し
此代十八文取

一タ七時比覺重來ル深川久和島より遣老四の卷うつし出來原本共請取筆料并ニ返翰差添覺重に渡之遣老物語廿卷是にて写し惣出來也尙又聞まゝの記一冊料紙差添に同人に渡ス久和島に写させ候故也○遣老の四校訂宗伯へ申付則とりかゝると云

一八大傳八輯六の卷の内四丁半稿之但廿五丁め迄也今夕四時過就寢

○廿四日辛未薄曇無程晴暖和美日

一地主杉浦清太郎より順養子幾之介旧冬見習ニ被召出候節進上の答礼として鳥の子餅二被ニ千九ウ贈之礼狀(下)すみにて來候ニ付此方も同様ニいたし返翰遣之

一大傳馬町殿村店より松坂表よりの大包狀届來ル受取書

遣之佐五平隱居いたし佐六と改名のよし右へ正月二月兩度此方より差遣し候書狀の返事也花鏡縁好述傳も無相違着いたしうけ取候旨申來ル同郷小津新藏よりの礼狀も一封中ニ入來ル新藏三月四日夕松坂へ歸府のよし申來ル

一昼後河合孫太郎來ル薪のけふり中の卷写し出來持參右筆料老朱遣之并ニ同書下の卷料紙さし添写しニ遣ス同人所望ニ付名物六帖人品の部五冊かし遣ス雜談後歸去一お百太郎を携つま乞いと染させに罷越昼後本郷へ換胚円かひ取ニ罷越夕方又いつみはしのたはこ取ニ罷越いつも太郎同道以上三度也

一宗伯遣老物語四の卷写本校訂風邪のよしにて未果

一余八大傳八輯六の卷廿七丁め迄稿し早昼後月代いたし其後右稿本つけかなニとりかゝり且文を補ひ候処も処ニ有之作之初丁より三丁め迄つけかな出來今夕四時過就枕

○廿五日壬申薄曇程なく晴

一 今日成正居士様祥月忌逮夜ニ付如例夕料供茶飯のつもり献茶おもちへ申付おく

一 四半時比おさき來ル料供手傳の爲也佛前ろうそく一包えうかん一棹持參

一 八時比覺重來ル前栽の淺黄さくら写真にいたさせ候つもり一昨日談し置候ニ付絵の具持參にて今朝一枝折置候間それを坐右ニ置写之夕七半時比写し終ル

一 同刻久右衛門來ル山わらひ小十わ持參かねて談し置候ひな長持久右衛門懇意のものゝ土藏に預候對談ニ付人足兩人めしつれ來ル則長持わたし遣し人足ちん四百文遣之久右衛門外用にて三十才急候ニ付茶飯ふる舞ニ不及到來のえうかん一棹子供方へもたせ遣ス

一 予八半時比より深光寺へ墓參腰痛歩行不便ニ付杖を用ふ夕七時過歸宅之後兩尊御画像并ニ家庙等迄拜之御画像へハ如例神酒備もち供之

一 予他行中お秀おきく來ル各手みやけ持參則茶飯一汁二菜振舞覺重おさきへも同斷清右衛門方へハおさき歸候節もたせ遣ス此外地主杉浦に二膳遣之

一 夕七半時過おきくおさき同道にて歸去引つゝき覺重も歸去お秀ハ吉兵衛病氣今以同斷のよしにて予歸宅後早ニ先へ歸去

一 予今朝より晝後迄八大傳八輯六の巻つけかな九丁稿之其後他行此内二丁ハ歸宅後燈下にて稿之内さし画分一丁除之今日分九八丁十二丁め迄也今夕四時就寢